| 学校番号 | 1201 |
|---|---|

# 令和８年度　数学科

| 教科 | 数学 | 科目 | 数学Ⅰ | 単位数 | ３単位 | 年次 | ２年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 改訂版　新　高校の数学Ⅰ（数研出版） | | | | | | |
| 副教材等 | 新　高校の数学　対応　教科書学習ノート　（数研出版） | | | | | | |

## 1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、教科書の内容を理解し、自ら問題を解くために必要な解法などの知識の習得を目指します。授業用ノートと問題集用ノートを準備し、授業内容をメモしたり、問題への取り組み方を学んだりしていきます。社会に出たときに役立つ力を身に付けながら、数学に取り組んでいきます。

・数学の理解を深めるために「授業の内容を理解する→問題を解く→答え合わせをする→問題を解く過程を振り返ってよりよい解き方を考える（特に間違えた箇所）」といった一連の過程で、学習していって下さい。宿題などの課題は、定期的に提出してもらいます。答えを写すのではなく最後まであきらめずに自分で解けるように取り組みましょう。

## 2　学習の到達目標

【知識及び技能】

・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

## 3　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 数と式、２次関数、図形と計量、データの分析における基本的な知識、概念、原理・法則などを体系的に理解している。<br>数と式、２次関数、図形と計量、データの分析において、事象を数学的に表現・処理することや、推論することができる。 | 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数と式、２次関数、図形と計量、データの分析における数学的な見方や考え方を考察することができる。 | 数と式、２次関数、図形と計量、データの分析の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、事象の考察に活用しようとする。 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 1学期 | 式の計算 | 整式の加法と減法<br>整式の乗法<br>因数分解 | a：一つの文字に着目したり、一つの文字に置き換えたりするなどして、いろいろな式の見方をすることや、目的に応じて、的確に式を変形する方法を考察することができる。<br>乗法公式及び因数分解の公式の意味や複雑な式が簡単な式に帰着できることを理解している。<br>b：一つの文字に着目したり、一つの文字に置き換えたりするなどして、いろいろな式の見方をすることや、目的に応じて、的確に式を変形する方法を考察することができる。<br>c：具体的な事象の考察に式の展開や因数分解などを活用しようとしている。 | 確認テスト<br>定期テスト | 確認テスト<br>単元テスト<br>定期テスト<br>課題 | 単元テスト<br>課題 |
| | 実数 | 実数<br>根号を含む式の計算 | a：簡単な無理数についての四則計算ができる。<br>数を実数まで拡張することの意義や実数が数直線上の点と１対１に対応していることを理解している。<br>b：数を拡張してきた過程や数の四則計算の可能性について考察することができる。<br>c：数の体系を拡張する過程や数の四則計算に関心をもち、それらを数の考察に活用しようとしている。 | | | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 一次不等式 | 不等式の性質<br>一次不等式<br>絶対値を含む方程式･不等式 | a:数量の関係を一次不等式で表したり、不等式の性質を基にして、一次不等式を解いたり、一次不等式の解を数直線上に表したりすることができる。<br>不等式の中に含まれている文字の意味や不等式の性質及び一次不等式とその解の意味を理解し、解を求めるための基礎的な知識を身につけている。<br>b:一次不等式の解について、数直線と対比したり、いろいろな数値を代入したりして考察することができ、不等式の性質を等式の性質と対比して捉え、不等式の性質を基にして、一次不等式の解き方を考察することができる。<br>c:数量の関係を不等式で表すことのよさを捉え、それらを具体的な事象の考察に活用しようとしている。 | | | |
| | 集合と命題 | 集合と命題 | a: 与えられた二つの集合の共通部分や和集合、補集合などを求めたり、簡単な命題やその命題の逆･裏･対偶について真偽を証明したりすることができる。<br>集合に関する基本的な用語・記号を理解し、命題の必要条件・十分条件、逆・裏・対偶などを集合と関連付けて理解している。<br>b: ベン図などを用いて数学の対象を整理しそれらを多面的・統合的に見たり、事象を命題として表現し、考察したりすることができる。<br>c: 集合の包含関係と命題を関連付けて捉え、それらを命題の考察に活用しようとしている。 | | | |
| 2学期 | 二次関数とグラフ | 二次関数とグラフ | a:二次関数 y=〖ax〗^2+bx+c のグラフと y=ax^2 のグラフの位置関係を調べることができる。<br>二次関数の式やグラフの特徴について理解している。<br>b:二次関数の式とグラフを関係付けて考察することができる。<br>c:二次関数とそのグラフについて関心をもち、それらを二次関数の考察に活用しようとしている。 | 確認テスト<br>定期テスト | 確認テスト<br>単元テスト<br>定期テスト<br>課題 | 単元テスト<br>課題 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 二次関数の値の変化 | 二次関数の最大･最小<br>二次関数の決定 | a:二次関数のグラフや式を用いて、二次関数の最大値・最小値を求めることができる。<br>二次関数の最大値・最小値とその求め方について理解している。<br>b:二次関数の値の変化の様子について、グラフを用いて考察することができる。<br>c:二次関数の値の変化に関心をもち、具体的な事象の考察に二次関数の最大・最小を活用しようとしている。 | | | |
| | 二次方程式と二次不等式 | 二次方程式 | a:二次関数のグラフと $x$ 軸の位置関係を二次方程式の解を用いて求めることができる。<br>二次関数のグラフと $x$ 軸の位置関係と二次方程式の解との関係を理解している。<br>b:二次関数のグラフと $x$ 軸の位置関係を、二次方程式の解に対応させて考察することができる。<br>c:二次関数のグラフと $x$ 軸の位置関係を基に、二次方程式の解について考察しようとしている。 | | | |
| | | 二次不等式 | a:二次関数のグラフを活用して二次不等式の解を求めることができる。<br>二次不等式の解の意味を二次関数のグラフとの関係から理解している。<br>b:二次不等式の解を二次関数のグラフを用いて考察することができる。<br>c:二次関数のグラフと $x$ 軸の位置関係 wo 基に、二次不等式の解について考察しようとしている。 | | | |
| 3学期 | 三角比 | 鋭角の三角比 | a:直角三角形を用いて考えられる計量の問題を、三角比の記号を用いて表現し処理することができる。<br>正弦、余弦及び正接を直角三角形の辺の比と角との関係として理解し、基礎的な知識を身につけている。<br>b:図形の相似の考え方を用いて、直角三角形の辺の比を角との関係で捉えることができる。<br>c:鋭角の三角比に関心をもち、それらを直角三角形の計量に活用しようとしている。 | 確認テスト<br>定期テスト<br>確認テスト | 確認テスト<br>単元テスト<br>定期テスト<br>課題 | 単元テスト<br>課題 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 三角比の相互関係 | a:三角比の相互関係を用い、与えられた三角比の値から残りの三角比の値を求めることができる。<br>三角比の相互関係について理解し、基礎的な知識を身につけている。<br>b:三角比の相互関係について考察することができる。<br>c:三角比の相互関係に関心をもち、それらを直角三角形の計量に活用しようとしている。 | | | |
| | | 三角比の拡張 | a:90°までの三角比の表を用いて鈍角の三角比の値を求めることができる。<br>鈍角まで拡張した三角比の意義を理解している。<br>b:鈍角まで拡張した三角比について考察することができる。<br>c:鋭角の三角比を鈍角まで拡張する考えに関心をもち、それらを図形の性質の考察に活用しようとしている。 | | | |
| | 三角形への応用 | 正弦定理と余弦定理 | a:三角形の決定条件が与えられたとき、三角形の残りの要素を求めることができる。<br>正弦定理・余弦定理を三角形の決定条件と関連付けて理解している。<br>b:正弦定理・余弦定理を導く過程を考察することができる。<br>c:正弦定理・余弦定理が有用であること認識し、それらを図形の計量に活用しようとしている。 | | | |
| | | 図形の計量 | a:三角比や正弦定理・余弦定理を用いて平面図形や空間図形の計量をすることができる。<br>正弦定理・余弦定理の利用の仕方及び三角形の面積の求め方について基礎的な知識を身につけている。<br>b:平面図形や空間図形の計量に活用するために正弦定理・余弦定理の式を多面的に見ることができる。<br>c:三角比や正弦定理・余弦定理などを平面図形や空間図形の計量に活用しようとしている。 | | | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3学期 | データの散らばり | データの散らばり | a:四分位数、四分位偏差、分散及び標準偏差などを求めることができる。<br>四分位数、四分位偏差、分散及び標準偏差などの意味を理解している。<br>b:四分位数、四分位偏差、分散及び標準偏差などを用いてデータの傾向を捉え、それらを的確に表現することができる。<br>c:四分位数、四分位偏差、分散及び標準偏差などを用いてデータの傾向を把握し、それらを事象の考察に活用しようとしている。 | | | |
| | データの相関 | データの相関 | a:散布図を描いたり、相関係数を求めたりすることができる。<br>散布図及び相関係数などの意味を理解している。<br>b:散布図や相関係数などを用いてデータの傾向を捉え、それらを的確に表現することができる。<br>c:散布図や相関係数などを用いてデータの相関を把握し、それらを事象の考察に活用しようとしている。 | | | |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度